

巨大な合板にこうして下絵を描きます。  
来年度の干支は『亥』。  
文字の配置。

イノシシの姿。  
背景などを考えて構想を練り、

部員でディスカッションを行い、下絵へとたどり着きます。

2018年

# 美術部活動



実施 平成30年12月吉日

## 下関市立 長府中学校美術部



鉛筆で位置を決めていきます。

これが構図を決めるという段階。

文化祭後の活動の一つ。

写真は部長と副部長が描いている様子。

美術部は、奉納絵馬の制作を年の暮れが近づくと行っています。



◇合板に紫を下地に塗ります。

周囲に、歴史的寺社仏閣が多く、身の引き締まる思いの中での絵馬の制作となります。



◇イノシシや草原に色をおきます。

**完成**の5日前。



◇さらに彩度を上げていきます。

下地が目立つ状態です。



そう、画面全体が暗いのです。



◇道の色を置きます。



◇微妙に変化させていきます。

歴史的寺社仏閣は、建築資材そのものに深い色味があります。

通常の合板の色は薄い黄土色。

それでは、新しい絵馬が周囲となじむことはありません。

周囲に溶け込むことを重要視して下地は暗い色。

◇謎のテカリ！



写真に写すと光ってしまう現象。  
ハレーションですね。



ハレーションを起こす事も考えに入れ、  
実験を繰り返しながら道をさらに明るく。



筆の置き具合を、  
タッチとして  
残しながら。  
奥へ向かって  
明度をあげながら。

◇見たことのない「イノシシ」の表現  
謎に取り組む美術部員。

一心不乱に筆を置きつづけていきます。



◇緑色をほんのりと透かして  
飾るときに  
周囲の自然になじませる画風。

紫から緑へ。

緑から赤褐色へ。

さらに黄土色。

ついに薄い黄土色。

最初はどうなるかと心配した生徒も一安心。





草原をご覧ください。  
イノシシから左へ向かう流れ。



空気感の再現。

止まっているのではなく、  
揺らぐような世界。  
逼塞するのではなく開放。



あたかも間違え探し。



わずかの变化『マッハの戦い』を繰り返し。  
草原の明度が高くなっていきます。



さらに、明度を高くします。



すると暗かった  
イノシシが！



細部の調整を始めます。



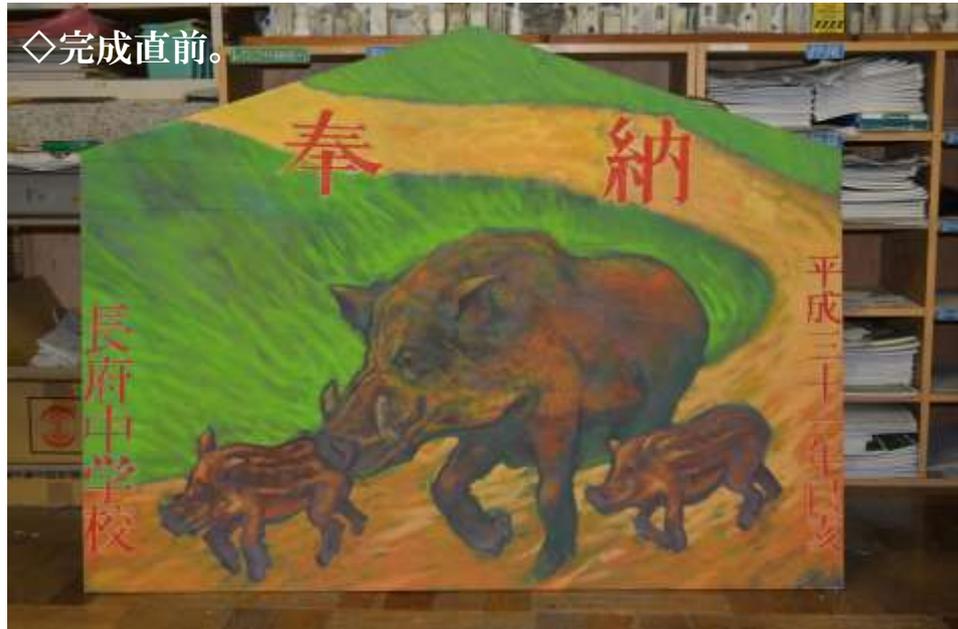
◇毛は筆を立てて。

◇草は下地が透けるように。

いつ終わるのか、  
予想のつかない作業を繰り返して、  
一つの絵馬が完成するのです。

色が《滲み》のように揺らぐ技法。  
美術部員は、様々な方法でチャレンジ！

◇完成直前。



しめさせた筆を、画面に走らせ、その後に色のついた筆を置いていく

《ぼかし》だけでなく、

筆を使わずに指で描く《スフマート》も試してみました。

果たして、完成体はどのようになっているのか。

写真では伝わらない事も多々あります。

実物は、乃木神社に奉納されています。

足を運んで見てください。

了